

科目ナンバリング：USE-2-151-06/UTL-2-311-01

■授業の目的及び到達目標

人間としての生き方を考え、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する道徳教育の目的並びに道徳科の内容及び指導計画の作成などの理解を深めることを目的とする。そのうえで実践的指導力を身に付け、併せて多様な指導方法を工夫・改善できるようにすることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 道徳教育をどうとらえるか
道徳とは何か、これまでの道徳教育の歴史を振り返りながら現代社会における道徳教育の意義と課題などを理解する。
- 2 道徳の目標と道徳性
学習指導要領に示された道徳教育と道徳科の目標を理解するとともに、道徳教育推進上の基本的配慮事項について理解する。
- 3 道徳の内容
学習指導要領に示された道徳科の内容について、その構造的な示し方、指導の方向性について理解する。
- 4 道徳授業を支える基盤
道徳科における教材の特徴や生徒の実態把握の方法について理解する。子どもの心を開き、よりよい成長への子どもの願いを汲み取る学級経営の重要性について理解する。
- 5 道徳の指導計画
子供の心の成長と道徳性の発達について理解し、子供の発達段階に合わせた道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画、学級の指導計画を作成する。
- 6 道徳の指導案の書き方
道徳科における教材の特徴や生徒の実態を踏まえた授業設計を考える。「卒業文集最後の二行」を用いて授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案の作成方法について理解する。
- 7 指導過程の工夫
道徳科の特質を生かした多様な指導方法（読物資料、視聴覚教材の活用、体験的な学習など）の工夫について理解する。教材教材「卒業文集最後の二行」を用いて、主題、ねらい、指導過程等について個人研究を行う。
- 8 道徳の評価
道徳科の特質を踏まえた評価の考え方、評価方法について理解する。
- 9 道徳の時間の指導の実際
教材「卒業文集最後の二行」を用いた道徳の時間の実際の授業視聴を通して、中学校の発達段階に応じた指導の仕方や授業改善の視点について理解する。
- 10 道徳科の指導案の作成（1）
教材「遥かなる時を超えて」を用いて指導案を作成する。資料分析を通して、ねらい、指導過程、発問等の工夫を図りながら作成する。
- 11 道徳科の指導案の作成（2）
教材「遥かなる時を超えて」を用いて指導案を作成する。発問に基づいた板書計画、ワークシート等、授業づくりに全般に向けた検討を行う。
- 12 授業研究（1）
教材「遥かなる時を超えて」を取り上げて指導案についてグループ協議、全体協議をとおして、授業のねらいや方法、授業改善の視点について学ぶ。教材「遥かなる時を超えて」について、実際の授業で使用した指導案に基づいて授業づくりの考え方やポイントについて理解する。
- 13 授業研究（2）模擬授業
教材「遥かなる時を超えて」を取り上げて模擬授業を行い、授業方法や授業改善の視点について学ぶ。
- 14 家庭や地域社会との連携
道徳教育、道徳の時間の指導の充実には、家庭・地域社会との連携や人材の活用等が重要であることを理解する。
- 15 授業のまとめと試験
定期試験を実施する。これまでの学習内容について確認し、教育基本法、学校教育法に定められた教育目標に即した道徳教育を推進することの重要性を再確認する。試験後にフィードバックとして解説を行う。

■授業の方法

講義形式で展開するが、学習指導要領や諸資料を活用しながら演習・グループワーク・対話形式の授業も設定する。教科化になり重要な教科でもあるので授業に意欲的に取り組むことを期待する。

■予習・復習

予習: 次回の講義の内容にかかわる学習指導要領を一読する。

復習: 授業内容をもとにした課題・レポートを提出すること。レポートに取り組むことをもって復習とする。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

定期試験 60%、課題やレポートの提出、授業の取組等 40%を総合的に判定する。

■教科書・参考書

文部科学省「中学校学習指導要領」（平成 27 年告示及び平成 29 年告示）同「解説 特別の教科 道徳編」
『こうすれば道徳科指導案が必ず書ける』谷合明雄編集 教育開発研究所

■関連する科目

倫理学 A/B、教育原理、教育・発達心理学、生徒指導論、特別活動論等と関連がある。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は、東京都公立中学校や教育委員会に 3 6 年間勤務し、道徳教育に関する研究実績を積んできており、それを本科目の指導に活かしていく。